

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和2年8月18日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所 愛知県海部郡蟹江町西之森三丁目47番地	
氏 名 加藤軽金属工業株式会社	
代表取締役 加藤 博穂	
電話番号 0567-95-1131	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	加藤軽金属工業株式会社
事業場の所在地	愛知県海部郡蟹江町西之森三丁目47番地
計画期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	23：非鉄金属製造業
②事業の規模	製品売上高：27億3600万円
③従業員数	84名
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	金型に詰まったアルミを溶かすために使用した苛性ソーダの廃液。処理は中間処理業者に委託し、中和・脱水後にセメント原料として再利用。

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 総務部長 特別管理産業廃棄物管理責任者 工具係(苛性ソーダ取扱者)			
特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和元年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃アルカリ(廃苛性ソーダ)	腐食性廃アルカリ(アルミン酸ソーダ)
	排 出 量	229 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 平成30年10月の毒劇法改正により売却に毒劇物取扱者の資格者が 必要になった為、現在は有価売却が出来ていない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃アルカリ(廃苛性ソーダ)	腐食性廃アルカリ(アルミン酸ソーダ)
	排 出 量	190 t	40 t
	(今後実施する予定の取組) 毒劇物取扱者の有資格者を確保したので、令和3年1月を目標に有価 売却を再開したい。		
特別管理産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) なし		
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) なし		

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和元年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃アルカリ（廃苛性ソーダ）	腐食性廃アルカリ（アルミン酸ソーダ）
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組）		
	なし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃アルカリ（廃苛性ソーダ）	腐食性廃アルカリ（アルミン酸ソーダ）
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組）		
	なし		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和元年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃アルカリ（廃苛性ソーダ）	腐食性廃アルカリ（アルミン酸ソーダ）
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組）		
なし			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃アルカリ（廃苛性ソーダ）	腐食性廃アルカリ（アルミン酸ソーダ）
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組）		
なし			

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和元年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃アルカリ（廃苛性ソーダ）	腐食性廃アルカリ（アルミン酸ソーダ）
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） なし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃アルカリ（廃苛性ソーダ）	腐食性廃アルカリ（アルミン酸ソーダ）
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） なし		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和元年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃アルカリ（廃苛性ソーダ）	腐食性廃アルカリ（アルミン酸ソーダ）
	全処理委託量	229 t	0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	229 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	229 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 特になし		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃アルカリ(廃苛性ソーダ)	腐食性廃アルカリ(アルミン酸ソーダ)
	全 処 理 委 託 量	190 t	40 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	190 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	190 t	40 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		
電子情報処理組織の 使用に関する事項	【前年度（令和元年度）実績】		
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポ リ 塩 化 ビ フ ェ ニ ル 廃 棄 物 を 除 く 。)	229 t	
	(今後実施する予定の取組) 令和2年8月に電子マニフェスト開始申請を行い導入する ※令和2年4月の義務化開始時より電子マニフェストが導入困難だった理由は下記の通りです。 特管物排出時のマニフェストは事務所にて発行しており、事務所内のインターネットにつながっているパソコンが古く、シャットダウンが頻発することに加え、インターネット回線への接続が非常に不安定であり、導入時点から困難であった。令和2年8月にインターネットに繋がるパソコンを新調すると共にLAN配線を敷き直して安定した運用が可能になったので、8月より電子マニフェストを導入します。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。